

廃塗料の資源化システムに 業界内外から高い評価

株式会社環美 (上尾市)

独自のシステムで廃塗料のリサイクル事業を展開する環美(本社=東京都板橋区・井出次男社長)の資源化工場(上尾市)を訪ねた。

環美は2007年、廃塗料の完全リサイクルシステムを確立、再資源化処理事業をスタートさせた。廃塗料のリサイクル処理という国内初となる事業が処理業界はもとより塗料業界、建設業界等で高い評価を得ている。

ハウスメーカー等で塗装材として使用される塗料で消費期限が切れたもの等の廃棄品は通常、産廃として専門の処理業者に処理が委託される。液状の廃塗料は廃掃法上は『廃油』に分類され、処理方法としては焼却後、焼却灰を埋立処分するのが一般的である。その際、液状の塗料は単体で焼却することができず(炉内壁に付着して炉を傷め、揮発性のあるものは爆発等の危険もある)、処理量の4倍量の木くず・紙くず等の助燃材が必要となる。

受け入れ先となる産廃処理施設もある程度限定されることになり、処理料金は他の産廃に比べても格段に高い。

こうしたことから、これまで大手塗料メーカーで焼却以外の処理方法として中和・分解処理等を

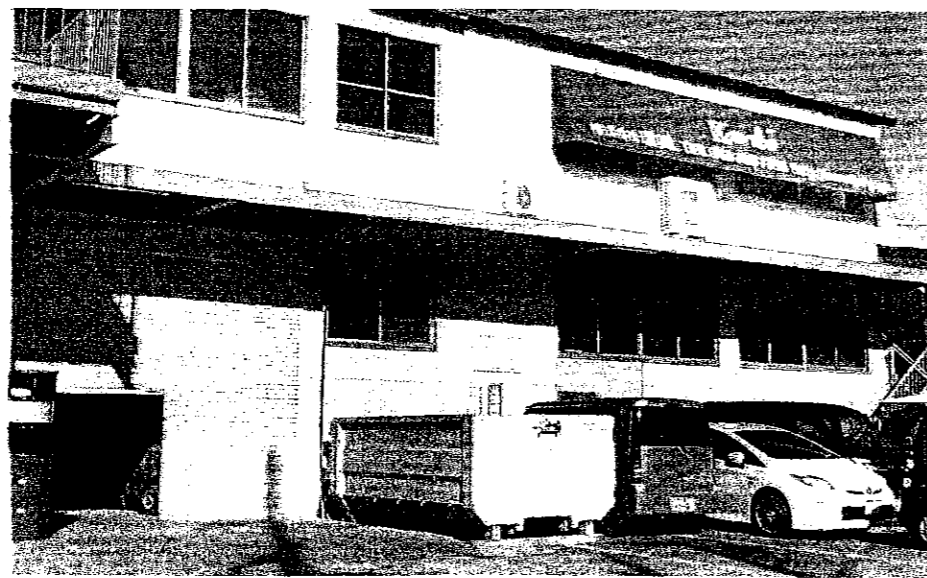
試みる例はあったが、いずれも高度な技術と大規模な施設を要するなど採算面での問題もあり、事業化には至っていない。

同社が行うリサイクル処理は、自社開発の安定固化剤『ジェット-P』を廃塗料に加えることで安定固化させる技術。国内初の試みとなる。一滴の水分も残さず乾燥固化でき、しかも処理後の副産物が「セメント原料」として再利用できる。

2007年に事業を立ち上げ、現在の上尾工場で



井出次男社長



環美のリサイクル施設外観(上尾市・領家工業団地内)

の稼働は2013年から。1日24時間フル稼働で処理能力は日量で9.6トン(ドラム缶約50本分)となる。現在、東京都塗装工業協同組合指定処理工場、埼玉県塗料商業会指定業者として、東京・埼玉ほかの関東全域と東北エリアからの処理を受け入れている。

画期的な処理システムが各方面で評価され、2011年には東京都の経営革新優秀賞で奨励賞を受賞している。こうしたこともあり、多くのマスコミで取り上げられたことから、一時は通常の業務にも支障をきたすほど施設見学希望が殺到し、現在も連日のように全国から問い合わせがある。

処理後のリサイクル原料は全量、セメントメーカーで安定的に使用されるルートが確立しており、処理の受託先はハウスメーカーや塗装業関連をはじめ、テレビ局や製作会社など多岐に及び、顧客数は現在、2000社を超える。

今後の課題について、井出社長に聞いた。最大の課題は処理コストの削減と処理能力の拡大とのこと。コスト面では現状でも従来の処理費用に比べれば半額程度に抑えられてはいるが、需要業界の多くがコスト削減に取り組むなか、未だに廃棄

物処理についてのコスト意識は低く、更なるコストカットへの努力は必要不可欠だ。

井出社長は当初から処理業に携わっていたわけではない。建築関連の多くが塗料の処理に困っていることを知り、廃塗料の処理技術に今後も発展性が期待できないことや、何より「ゼロエミッション」「リサイクル」というキーワードが今後の産業の主流になることにいち早く着眼、前例のないリサイクルシステムを考案した。

東京オリンピックの開催に向け、首都圏を中心にインフラ整備が急ピッチで進められる中で、廃塗料の処理需要もさらに拡大が見込まれるが、あくまで産業廃棄物処理業と言うスタンスから、環境に配慮した健全な処理事業に取り組んでいきたいとしている。

株式会社 環美
本社：東京都板橋区前野町四丁目13番3-104
工場：埼玉県上尾市領家1164-1 領家工業団地内
営業所：長野県上田市長瀬2606-4
TEL：048-780-7766
FAX：048-780-6668 (上尾工場)
メール：kanbi@jet-p.jp



上尾市、2007年、48・780・7766) 事業化を促進するため、経営革新計画の承認を行っている。は、2007年、経営革新優秀賞は、年に国内初の廃塗料専門の施設として稼働を開始した企業を表彰した。今までは、塗料は一部が水性塗料が処理業者の受賞は初水処理される。とされる。

環美(本社・東京、井出次男社長)は、評価され、東京都経営革新優秀賞の奨励賞を受賞した。リサイクルシステムが、廃塗料を焼却せずに、賞を受賞した。リサイクル工場(埼玉県)は、セメント製造の代替原燃料として供給している。
塗料リサイクルが評価
環美(本社・東京、井出次男社長)は、経営革新優秀賞の奨励賞を受賞した。リサイクルシステムが、廃塗料を焼却せずに、賞を受賞した。リサイクル工場(埼玉県)は、セメント製造の代替原燃料として供給している。